

西之島の火山活動解説資料（令和5年6月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

今期間、噴火は観測されませんでした。火山活動は継続していると考えられます。山頂火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。
令和2年12月18日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を発表し、警戒が必要な範囲を山頂火口から1.5kmに縮小しました。その後、警報事項に変更はありません。

○活動概況

・衛星による地表面温度及び噴火の状況（図1）

気象衛星ひまわりの観測では、噴火は観測されませんでした。

西之島付近の地表面温度¹⁾については、2022年12月上旬頃から周囲とほとんど変わらない状態となっていました。2023年3月上旬頃から周囲と比較してわずかに高い傾向が認められています。

・現地の状況（図2）

14日及び22日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められませんでした。火砕丘中央火口から白色噴気が高さ約600m（14日）及び約1,200m（22日）まで上がっていたほか、火口西側内縁及び火砕丘南東山腹から山麓にかけて複数の白色噴気が上がっていました。火口縁東部から南部及び南部山腹に硫黄昇華物が確認されたほか、火口南縁に茶褐色の湯だまりが確認されました。また、島のほぼ全周に茶褐色から緑色の変色水が分布しており、22日には島の南方沖合に薄い緑色の変色水が認められました。

1) 輝度温度による。輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和5年7月分）は令和5年8月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

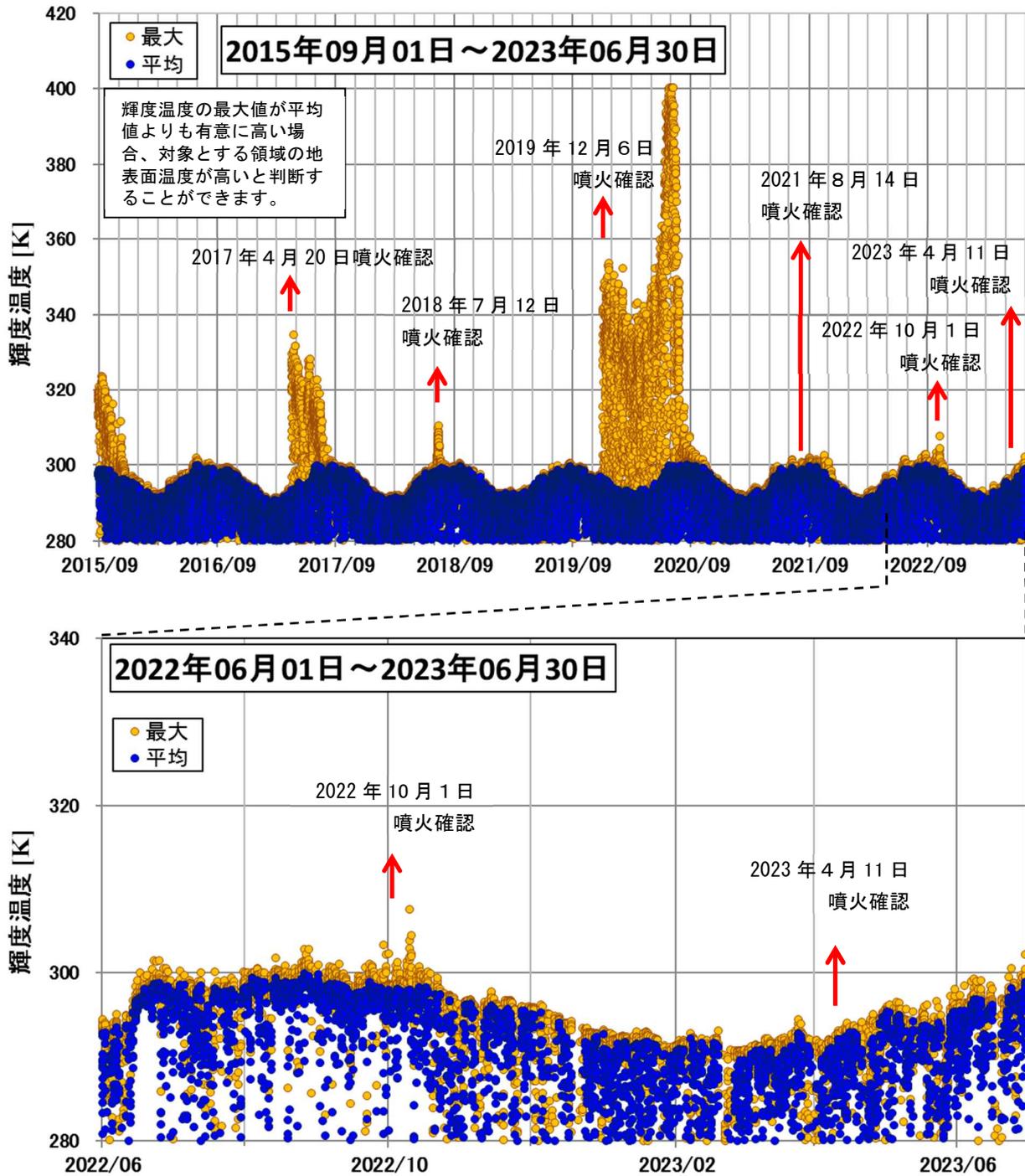


図1 西之島 気象衛星ひまわりの観測による西之島付近の輝度温度の変化

輝度温度は中心波長3.9 μ m帯により観測されたものです。
 西之島を含む概ね30km四方の領域内の輝度温度の最大値と平均値を示しています。
 日射による影響を考慮し、夜間の観測値のみ解析しています。
 火山灰を含む明瞭な噴煙を気象衛星ひまわりで検知した噴火を矢印で示しています。

- ・2022年12月上旬頃から周囲とほとんど変わらない状態となっていました、2023年3月上旬頃から周囲と比較してわずかに高い傾向が認められています。



図2-1 西之島 上空からの観測による西之島の状況（6月14日 海上保安庁による観測）

- ・噴火は認められませんでした。火砕丘中央火口から白色噴気が高さ約600mまで上がっていたほか、火砕丘南東山腹から山麓にかけて複数の白色噴気が上がっていました。
- ・火口縁東部から南部及び南部山腹に硫黄昇華物が確認されました。
- ・火口南縁に茶褐色の湯だまりが確認されました。
- ・島のほぼ全周に茶褐色から緑色の変色水が分布していました。



図2-2 西之島 上空からの観測による西之島の状況（6月22日 海上保安庁による観測）

- ・噴火は認められませんでした。火砕丘中央火口から白色噴気が高さ約1,200mまで上がっていたほか、火口西側内縁及び火砕丘南東山腹から山麓にかけて複数の白色噴気が上がっていました。
- ・火口縁東部から南部及び南部山腹に硫黄昇華物が確認されました。
- ・島のほぼ全周に茶褐色から緑色の変色水が分布しており、島の南方沖合に薄い緑色の変色水が認められました。

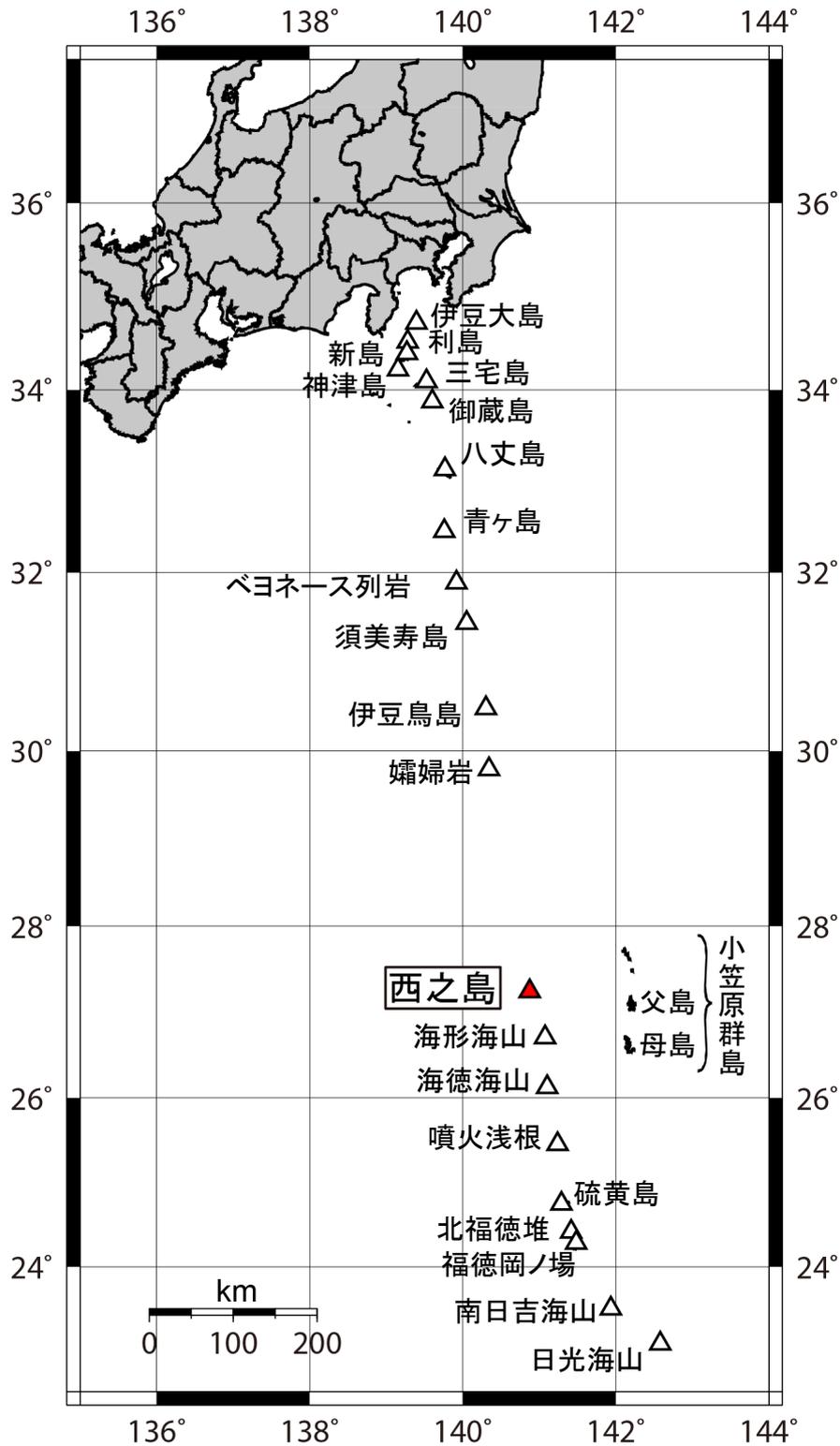


図3 西之島 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図
 西之島は、東京の南約1,000km、父島の西約130kmに位置します。